

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4470101967
法人名	医療法人展寿会
事業所名	認知症対応型グループホーム「ふじ乃家」
訪問調査日	平成20年11月 6日
評価確定日	平成21年 1月15日
評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日平成20年11月19日

【評価実施概要】

事業所番号	4470101967
法人名	医療法人 展寿会
事業所名	認知症対応型グループホーム「ふじ乃家」
所在地	大分市大字寒田235番地16 (電話)097-568-3002

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成20年11月6日	評価確定日	平成21年1月15日

【情報提供票より】(平成20年10月24日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成13年4月27日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9人
職員数	9人	常勤	9人, 非常勤 0人, 常勤換算 7.84人

(2)建物概要

建物構造	鉄筋一部鉄骨造り	
	1階建ての	1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,750円	その他の経費(月額)	12,400円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,300円			

(4)利用者の概要 (平成20年10月24日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名
要介護1	1名	要介護2	4名		
要介護3	4名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 90歳	最低	82歳	最高	98歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	梶本医院 アルメイダ病院 斉藤歯科医院
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

- 1 事業主が協力的で、事業主の運営でイルミネーションの見学や初詣など季節の行事に出かけ楽しませてあげている。栄養面や美味しい食事への指導体制があり、利用者が家庭的な雰囲気の中で暮らせるよう取り組んでいる。
- 2 利用者の思いや生活歴の把握がなされ、介護計画にその人らしく暮らすことが具体的に盛り込まれ職員は日々のケアに活かしている。
- 3 ふるさと訪問として職員の自宅を開放し昔懐かしい家で泊まりがけで過ごしている。好きなものを食べ好きなことをして、晩酌をするなどゆっくりと生きる楽しみを味わっている。帰宅、外出願望のある人はのんびりとした空間で気分転換となっている。
- 4 地域活動に積極的に参加し、趣味の活動に地域の公民館に出かけている。
- 5 梅干づくりや新鮮な野菜を買い出しに行くなど、見て、食べて、肌で感じる支援を大切にしている。
- 6 利用者は自分のペースで動き、自分の思いを素直に伝え、職員はさり気なく見守り利用者が主人公の支援を行っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	改善点について運営推進会議や職員の会議で話し合っている。一つひとつについて具体的に解決方法を出し合い、実践して前向きに取り組んでいる。また、職員は改善とされた原因と効果に気付き、評価を活かしている。
①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全員に自己評価票を配り項目ごとに理解と評価を行い、意見を出し合いまとめている。自己評価をする中で職員は介護のポイントやねらいを学習しケアに活用している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回開催、自治会長、老人会長、家族、医師(事業主)の参加のもと積極的に話し合いがされている。認知症の学習や外部評価の内容と事業所の思い、活動報告と計画案など意見を出し合っている。話し合いを基に活動を行っている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連事項:外部7, 8)
	家族は運営推進会議に出席して外部者参加の中で意見を出している。毎月の面会時には職員と気さくに話しをして、家族として思っていることを伝えている。介護プランについても家族と話し合いを行って決めている。要望や意見は謙虚に受け止め対応している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の小学生が交流に来て楽しく過ごし、利用者はグループホームの近くのスーパーへ買物に出かけたり、地域の公民館の教室に通い交流を図っている。毎朝周辺の掃除をしてご近所へあいさつをし、顔なじみになるよう働きかけている。また公園へ散歩に出かけ、地域の高齢者とのふれあいの場としている。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員で地域密着型サービスとして大切なことや、グループホームとして取り組むことを話し合い作り上げている。特に地域との結びつきやその人らしく生きることを重視している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関やスタッフルームの見やすいところへ掲示し、毎日の会議で理念を唱和し、ケアに活かすよう具体的に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	毎朝グループホーム周辺を掃除して近隣の方とあいさつを交わす場面をもうけ、地域の公民活動に参加して馴染みの関係作りの働きかけをしている。また、ご近所のスーパーや美容院に出かけ、公園への散歩も日常的に行き地域の人たちと交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義について管理者は職員に説明し、運営推進会議の場で、前回の評価についても話し合っている。自己評価については職員全員で話し合い、内容を振り返りながらまとめている。前回改善項目については、直ぐに話し合い、改善に向け具体的に取り組んでいる。		
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月ごとに開催している。家族や地域代表者、市役所、法人役員、職員が参加して活動内容や認知症の理解、外部評価など話し合っている。行事活動についても計画段階から話し合っ意見や効果など出し合い実践をしている。サービスの状況について支援状況や利用者の表情をスライドに映し、日頃のサービスの質の向上に活かしている。また、市担当者より制度の内容などについて説明があり勉強の場となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は積極的に市役所へ出向き、解決できないケースや問題など相談をしている。指導を受け助言をサービスに活かしている。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月家族は面会に来て日頃の状況や、金銭利用内容の説明をしている。面会の少ない家族に対しては電話により状況を説明して理解を深めるよう心がけている。健康状態について、事業主(医者)と家族、職員が連携を取り安心できるよう支援をしている。運営推進会議でスライドにより見て状況がつかめるよう工夫をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時職員は家族と積極的に話しあい、意見や要望を聞いている。運営推進会議では家族からそれぞれ意見を聞き運営に活かしている。ホームの行事にも参加して楽しい雰囲気の中で気軽に相談ができるよう働きかけている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動を少なくし、利用者、家族、職員との馴染みの関係を大事にしている。異動に際しては利用者と徐々に慣れて行くよう期間を設けて支援に支障の無いよう配慮している。法人内異動の時には事前に顔を出して信頼関係をゆっくりと築いている。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じて各研修に参加している。認知症指導者研修にも長期にわたり職務として出張し、職員や運営推進委員へ伝達報告を行い質の向上に努めている。新任者に対しては管理者や先輩職員が中心になり、基本的な指導やケア方法、夜勤対応など支えながら習得できるよう仕組みができています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国グループホーム協議会に加入、県連絡協加入手続中である。管理者は介護研修会で知り合った他事業所と連絡を取り合い、サービスの向上に向け話し合っている。職員も今後他事業所へ見学や研修に出向き相互交流の予定である。	○	関連事業所と管理者、職員が研修会や交流会に参加し、見学や学習会を通して他事業所と共に質の向上に取り組むことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	法人施設利用者が入居を希望することが多く、家族や利用者が見学を行って馴染みの関係の継続となっている。自宅より入居の場合は入居前や入居後訪問して環境の継続に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は介護をされているというより、自分の人生を生きており、若い職員をいたわり、調理方法や人生について教えている。また、自分の得意なことや出来ることを積極的にやって、職員は感謝の言葉を伝え、職員と共に喜び合っている。利用者は職員の動きなど観察してかわいがり、孫や子どもに接するような言葉掛けをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症の人のためのケアマネジメントセンター方式を取り入れ、一人ひとりに応じた願望や暮らし方を詳しく聞き取り、職員間で共有している。入居時に観察を充分に行い、言葉として表現できない面についても把握している。また日常の中でも状況の変化による意向を汲み取ろうとしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人がどのように暮らしたいか、その人らしく暮らせるよう計画をたて、具体的な支援方法も記入している。全職員でカンファレンスやモニタリングを行い、家族が毎月訪問した時に話し合い、計画確認を行って、本人主体の計画を作成につなげている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月の会議で状況の変化を話し合っている。モニタリングを行い常に状況を確認して、介護計画のためのノートに書き込み、状態の変化によっては新たな計画を作成し現状に即して見直している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の状況により専門医の受診や美容院の同行を行っている。近隣のスーパーや産地直売店などへ出かけて旬の物や流行に触れる機会を設けている。また、地区公民館の趣味の教室に参加し馴染みの関係を継続している。ふるさと訪問で職員の家に行き、のんびりと好きなように泊まりがけで過ごしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の馴染みのかかりつけ医を尊重し、協力医療機関など専門病院と連携をした医療体制を整えている。事業主が医者で隣接して暮らしていることから、24時間いつでも医療支援が受けられ安心である。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療機関のホームで利用者と家族は安心して暮らせる場ととらえ、状態の変化により家族、利用者、担当医、職員と話し合い方針を共有している。運営推進会議において重度化や終末期に向け話し合い、書面として確認しあうよう対応中である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの大切に思うことや性格など多くの情報を収集し職員は尊重したケアを実践している。言葉かけもプライドを傷つけないよう耳元でトイレ誘導や、動きや時間から行動把握し対応を行っている。個人情報についても学習会で研修をして、プライバシーの確保と情報の保護に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの1日の過ごし方を観察して、その人なりのパターンの把握に努めている。一応のタイムスケジュールはあるが、自分の好きな時に好きなように動き、外に出たい時は自分から出て行き、職員は声を掛け合いチームワークで支援に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が自分の役割をもって、米とぎや準備片づけを行い、朝食やおやつは利用者のできそうなことを計画して楽しみながら動いている。職員と同じテーブルについて、家庭的な雰囲気の中で思い思いのことをおしゃべりして、美味しそうなものを利用者はこっそりと職員の食器に分け入れ愛情が感じられる風景である。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	体調や状況を考慮した上で本人の希望により入りたい時に対応している。嫌がる人に対しては職員が興味を持つよう話しかけたり、お風呂に入りたくなるようチームでタイミングを取るようになっている。基本的には週3回入浴している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員はできることや得意なことを把握して、さり気なくやりたくなるよう働きかけている。利用者は毎日の生活の一部として、食事の準備や片付け、洗濯、趣味や楽しみの支援など行い活き活きとしている。特に梅干づくり、新聞の切抜きなど生活に潤いを持つようなケアをプランに盛り込み、計画的な取り組みをしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に好きなように玄関から外に出て、外の空気に触れ中庭でお茶や話をして楽しんでいる。朝の外掃除や近所の公園の散歩、毎週水曜日の買物やドライブなど希望に応じて支援を行っている。また、定期的に地域の公民館に出かけるなど戸外に出るようアプローチをしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵を夜9時まで施錠せず、面会も来やすいように配慮し、利用者も自由に入出入りしている。外出の傾向や心情を読み取り安心して納得のいくよう対応している。居室の窓も閉塞感を考慮して部屋の入れ替え等で落ち着けるよう取り組んでいる。出入りの時に声を掛け合うことで所在が確認でき、職員はさり気ない見守りを心がけている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域全体の消火訓練にグループホームも地域の一員として参加し、運営推進会議で地域へ協力の呼びかけを行っている。事業所全体での防災訓練も定期的実施、グループホーム独自でもケースに応じた救助方法を検討し、シーツを使った避難訓練など行っている。災害に備えた備蓄についても隣接の法人に備え、ホーム内にも非常食を準備している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	旬の食材や地域直産品など食べることを重視して、栄養や食事量も考慮し、食事摂取ノートに記録している。摂取量や献立について法人内の管理栄養士と話し合い、食べやすい状況や形態など工夫している。体重変化や水分量もチェックし、状態に応じた支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり					
		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木漏れ日や障子の光など落ち着ける雰囲気を作って、穏やかに過ごせるよう空間を演出している。畳ベンチや季節の草花、地域の小学生と楽しく過ごした写真など自然や人や時間の繋がりを大切にしている。また、米を研ぐ音や炊ける匂い、野菜を刻む音など五感にふれる家庭的な居心地の良さを作っている。		
		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔から馴染んだ家具やイスなど持ち込める人は持ち込み、趣味の切抜きや、テレビなど毎日を楽しくゆったりと過ごせる配慮をしている。家族の関係を大切に室内に家族の写真を貼り、繋がりを保つようにしている。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	認知症対応型「グループホームふじ乃家」
所在地 (県・市町村名)	大分県大分市
記入者名 (管理者)	三浦トミ子
記入日	平成 20年 26月 24日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<input type="checkbox"/>	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
	地域との結びつきを重視した支援の中で、公民館活動等を行っている。		
<input type="checkbox"/>	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
	毎日朝の申し送りの時に理念を唱和し実践に取り組んでいる。		
<input type="checkbox"/>	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
	運営推進会議で地域の代表者や家族が参加する事で事業所の取り組みを理解してもらっている。		
2. 地域との支えあい			
<input type="checkbox"/>	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
	毎朝施設の周りを掃除する事によって地域の方と顔馴染みになり、気軽に声かけをしている。施設にも利用者の方にも親しみやすい環境を作っている。		
<input type="checkbox"/>	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		
	近くの美容院の利用や毎週詩吟で公民館活動に参加している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議で老人会の会長が老人会で受けた認知症についての質問等聞かれそれについて答えている。散歩中の高齢者に声かけし親しく話しをする。	○	地域の高齢者を見かけたら体調の事などで助言をしている。今後も継続していく。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	会議の席で全職員で話し合いの機会を持ち改善策を探り実行している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では利用者へのサービスや支援している様子等をスライドで映し評価を頂いている。又制度の勉強会の場所ともなっている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所で解決できないことがあれば、その都度市の担当者の方へ出向き助言をもらっている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者が研修に参加し成年後見人制度について学ぶ機会を持って、会議の席で勉強会をしている。今の所対象者は居ないが今後必要に応じて支援して行く。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に行き会議の席で話し合いをし、常に全身状態や皮膚の観察を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ケアに関する考え方や取り組みを可能な範囲で説明している。利用者や家族も納得している。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	言葉や表情から思いを察する努力をしているが、更なる利用者本位の運営に努めていきたい。	○ 意思表示が苦手な利用者様もいるので取り組んでいきたい。 (入居者会議を月1回する)
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	運営推進会議や面会時で報告し、又面会の少ない家族には電話で連絡している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議などで機会を設けている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回のスタッフ会議などで反映させている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	法定人員外のスタッフを配置している。主として管理者が充分時間をかけ対応している。	○ 利用者の状態の変化に応じた対応ができるように、勤務調整をしている。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員交代によるダメージを防ぐ取り組みとして、最小限の配置交代と前後に有余を持って納得の上で、対応し本人や家族の不安や不満のないように配慮している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	学習会や研修会などに順番に参加し多くの職員が受講できるように進めている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者を中心にして他の同業者からの情報は受けてサービスの質の向上に取り組んでいる。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	法人上げての交流会や親睦会をしている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者はケア会議・全体会議・自己評価等で目標や取り組みを書面にて示させ、それに応じて声かけなどを行い向上心を持って働ける様に努めている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前などに本人が不安な事に時間をかけて傾聴している。本人の意向が把握出来ない場合は、家族から本人の意向を聞き取る様に努力している。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族とは何度か連絡を取り、その都度不安に思っている事などを聞き取り具体的に提示する様にしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	それまでの本人の生活の様子や実働が分るように介護などで把握し、入居後環境の変化に対応できるように努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	在宅から入居される場合は家族と共に見学し場の雰囲気に慣れてもらい、又併設施設からの入居の場合は数回来居してもらい、環境の変化の戸惑いや不安がないように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家事全般を通して一緒にする事で、お互いに支え合い、特に若いスタッフは味付けなどを教えてもらっている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時などに家族が不安に思っている事などを傾聴し、解決できる対応をしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時などに本人の思い家族の思いを受け止めて、両者の思いを結びつけるような働きかけをしている。面会の少ない家族に対しては、電話で近況報告を行っている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ふる里訪問と題して実践している。又地域の馴染みの人が参加している公民館での、サークルや行事に参加見学している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	一人ひとりのレベルに合わせて席の配置に配慮し、利用者同士の関係がうまくいくように職員も同じテーブルに座り、話題づくりに努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	病気で入院したり都合により他施設に転所した人には、お見舞いに行ったり面会に行き関係を断ち切らない付き合いをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりにより訴えや表情から本人の思いを汲み取り把握している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から生活歴や暮らし方などの情報を得ている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの生活リズムを理解し、其の人のできる事などの現状を感じとり本人の全体像を把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族に対して思いやりや要望を聞き、全職員でカンファレンスやモニタリングに基づき本人主体の介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	常に情報を確認し状態が変化した場合は、新たな計画を作成している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ケアを重点に置きその都度記録に残し、職員間で情報を共有し、月3回のカンファレンス会議を開き介護計画の見直しをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の状況に応じて美容院への同行、歯科受診等の支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	本人の希望により昔ながらの馴染みのある地域の方との交流をしている。公民館活動に参加、近所のスーパーへの買い物等。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	併設されている老健の行事やデイケアのレクリエーションに参加している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	法人の介護支援専門員を介して包括支援センターとの協力を得ている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設の医院と連携をとり、本人及び家族等も信頼していただけているので、良好な医療の支援ができています。又重篤な場合は協力医院への紹介あり。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		<p>退去した場合でも気軽に意見交換や相談のできるよう、本人や家族等との信頼関係を築いている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人としての尊厳を大切にし各々性格やより多くの情報を知り、失礼の無いよう日常の対応に心がけている。個人の情報は漏らさないように徹底している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	食に関しては本人にメニュー表を提示し希望の飲み物を選択してもらったり、レクレーション等自己に応じたメニューで支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	申し送り等でその日の様子を早くキャッチ、言葉、表情等伺いながら、その人らしい生活のリズムを考え支援していく。声掛け合いチームワークで行う。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	定期的に理容・美容師が来る。又近所の美容院へ行く。朝起きたら髪や服装を整え鏡でチェック支援する。事により化粧もする。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備片付け等茶碗を洗ったり拭いたり、又お盆やテーブル拭き、食材を切ったり盛り付け等、職員がサポートしながら行う。自分が役に立つこと又出来る事に満足し楽しんでもらう。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	その日の体調に合わせ、本人の要求に応える(お酒等)。コーヒー・お茶も本人の意思に問い応え支援する。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄の記録を取りその人のパターンに合わせ誘導したり見守りを行い、失敗やオムツの軽減に努めている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	あくまでも本人の意向を重視して入浴が楽しめるように、時には夜の入浴の希望も出来るように対応に努めている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々の体調や本人の希望に応じた食後の休息を取ってもらったり、本人の状態を見て対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備片付けや洗濯物を干したり畳んだり、主婦として役割を果たす事に喜びを感じたり、体操やレクリエーション(パズル・ぬりえ・カルタ等)詩吟・生け花・絵手紙等楽しく過ごせるよう支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員と買い物に出かけるときなど、力量に応じて使えるよう支援している。又外食も応じている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外気欲、庭の散歩、公園等散歩、出来るだけその人の希望に添ったり、又こちらがアプローチしながら戸外に出られるよう支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	正月、盆の神社参りやドライブ・ふるさと訪問・花見・花火見物等四季を通して出かける機会を作る努力をしている。又年に1回家族と共にバスハイクに参加している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人希望で電話を掛けたり、写真や絵手紙を親戚の人に出したり、代筆したりして支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に来られるよう挨拶に気をつけ、湯茶の接待や会話等、工夫している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議等で議題に出し職員全員が理解している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関前テラスで職員の見守りの中自由に外気浴をしたり、居室の出入りは自由している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室に付いているトイレの使用中はドアに”使用中”の札を下げ、入居者様のレベルに合わせ職員は介助したりドアの外で声かけしたりして、プライバシーに配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの楽しみや生活の為注意の必要な物品をステーションで預かり、使用時には見守りをして危険を防ぐ取り組みをしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告やヒヤリハット等発生した都度、申し送りやミーティングを開いて職員全員が原因を共有し再発防止に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている		○	夜間や休日の緊急連絡網を作成し勉強会をしているが、定期的に職員間でする訓練は今後の課題として取り組みたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	シーツを使った避難訓練や地域の小学校で消火訓練をしている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	運営推進会議の席でリスクについて家族に院長より説明をし、個々の尊厳を守り抑圧感の無い支援をしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日午前・午後とバイタル測定をしたり、水分摂取量や排尿チェックをしている。体調不良時には速やかに管理者・看護師に報告し、職員間でも情報を共有している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的等受診時に医師より指示された事は、申し送りノートやケースに記録し、服薬の支持と症状の変化の確認に努めている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食物繊維の多い食事作りや水分補給に気を配り、廊下歩行や周辺の散歩等身体を動かす働きかけをしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	入居者様一人ひとりの動きに合わせ、毎食後の口腔ケアの支援をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取ノートを作り記入している。摂取量が低下した場合は管理栄養士に指示をうけ補助食品も使っている。又利用者の状態にあった食事の形態をかえている。	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症についてマニュアルを作成し全職員が対策に努め、常にドアノブの消毒液での拭き取りをしたり、インフルエンザ予防接種に努めている。	
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	小まめにマナ板やふきんの消毒に努めている。鮮度を保つため買い物の溜め込みをしない。野菜類はスーパーではなく地元産を選んでいる。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	バリアフリーの玄関、坪庭の手入れと季節感あふれるいけ花を常に心がけている	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一部吹き抜け天井でフロア等は自分たちの作成した絵手紙や写真を展示し、又はテーブル等には季節感を取り入れた草花を生けている。	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気のあった同士が畳の間にくつろいだり、又はテラスの椅子では一人で本を読んだりするスペースがある。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのソファや家具、テレビを持ち込み又は家族の写真を飾り居心地よく過ごせる様配慮している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気に気を配り1日1回は空気の入換え、又個々の状態に合わせて湿度調整をしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	夜間帯転倒の恐れ有る人に対してはベットをトイレに近づけたりマット使用している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	部屋が分りにくい入居者には居室に名前を貼っているが、それ以外に馴染みのハンカチ等下げる事により、自分の居室だと認識出来る事になっている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外気欲、ティータイム、中庭の散歩、歌を唄ったりの利用度は多種。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほほ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○	①ほほ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほほ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほほ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・運営者が運転のもとで、季節ごとの行事、ドライブに同行している。
- ・畑で入居者と一緒に野菜を作り収穫し食卓に出している。
- ・毎年、梅干作りを入居者と一緒に運営推進会議の席などで参加者に試食してもらっている。
- ・職員の自宅が開放されており、帰宅・外出願望ある人に対しては、ふる里訪問として、一日ゆっくり過ごして気分転換を図る。
- ・ドライブを兼ねて産地まで新鮮な野菜を買いに行き、食卓に出している。